

「あ、就職決まったんだ！おめでとう！」就労移行支援事業所アフレッシュいわきのサービス管理責任者を務めている私にとって、利用者さんから就職が決まったという連絡を受けた時が一番うれしい瞬間です。利用者さんの未来が明るく大きく変わった瞬間です。

私は障がい福祉サービスの一つである「就労移行支援事業所」をいわき市で立ち上げ、日々障がいのある方々の「働きたい！」という思いをかなえるため支援をしています。なぜ、この仕事を選んだのかといいますと、私は以前から幼稚園の先生をしたり、介護の仕事をしたりと、人を支援する仕事が好きでした。今度は就労を希望する障がい者を支援したいと思ったのです。

私が幼稚園の時に弟が生まれました。弟に親を取られてしまったと感じたのでしょうか、私は登園拒否になってしまいました。その時、園長先生が

民報 サロン

障がい者就労支援日記

永山 牧子



成三十二年四月に設立し、四年目に

一人ではありませんよ」と伝えたいで

入りました。六人の支援員と共に障がいを抱える利用者さんの就労のための

訓練内容は、例えばパソコンスキルの向上や資格の取得など一人一人が課題を設定し、支援員と一緒に取り組んでいくものと、利用者さんがグループで行う「グループワーク」があ

とに「マニキュアをつけてあげるからおいで」と優しく言ってくれたおかげで、再び登園するようになったのです。この時のやりとりが今も記憶に残っています。現在、こうした悩みを抱えて「在」に対する憧れがあったのかもしれません。

アフレッシュいわきは二〇一九(平

「悩みを抱えているのは決してあなた

毎日がにぎやかで慌ただしく過ぎて

いく就労移行支援事業所の日々。私たち支援員は利用者さんを支援するだけではありません。一緒に楽しんでいる

「教養訓練」では、利用者さんとともに、自分も忘れてかけている分數の割り算にチャレンジしたり、休み時間にはワイ

ワイと雑談に花を咲かせたりしていま

す。そこにあるのは、役割分担として

の「支援」であり、共に成長し続ける

ための「共生」や「協力」の関係な

ど思います。

日常生活のリズムが整います。まだまだ日常生活のリズムが整わず、訓練が開始できない方には、日常生活のサポートから始めています。

障がいのある方の日常生活について

ります。施設の「名物ワーク」である

いわき市明治団地、アフレッシュい

わきサービス管理責任者)